

ユネスコ・カイロ事務所およびエジプト日本科学技術大学に招聘され講演を行いました (2021/11/30)

テーマ：災害マネジメント、災害リスク評価、復興曲線
場 所：オンライン

当研究所の村尾修教授（国際防災戦略研究分野）が、エジプトのユネスコ・カイロ事務所とエジプト日本科学技術大学（E-JUST）が主催するウェビナーシリーズ「UNESCO & E-JUST Webinar on Climate Change and Disaster Risk Reduction」において招待講演を行いました。

これは、「気候変動と災害リスク軽減」を主なテーマとし、関連分野の研究者等を対象に定期的に行われているものです。11月30日開催のウェビナーにて、村尾教授は「Learning from the 2011 Great East Japan Earthquake, How to think of Urban Disaster Risk Reduction」と題し、東日本大震災からの教訓と都市災害リスクの軽減について講演しました。主な内容は、以下の通りです。

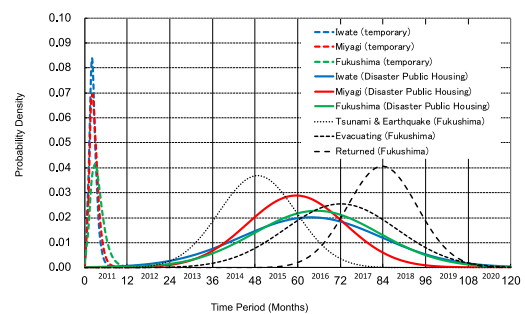
- 都市災害のリスク評価
- 災害マネジメントと災害対応の循環体系
- 1933 昭和三陸地震津波と 2011 東日本大震災からの復興
- 被害抑止の重要性と仙台防災枠組におけるより良い復興
- 南海トラフ巨大地震
- 災害後の評価と復興曲線

村尾教授は、ハンムラビ法典の一節を用い、災害対応のための都市・建築デザインの必要性について話しました。また、釜石市の巨大な防潮堤が震災時に津波到着時間を遅らせ、浸水面積や遡上高の低減に寄与したこと等、具体的な事例とともに東日本大震災被災地における復興後の現況や課題についても触れました。最後に、災害復興を評価するために用いられる復興曲線について説明しました。

今後も防災の取り組みにおいて、エジプトと日本の交流に寄与する所存です。



Probability density functions for the post-disaster reconstruction (temporary housings and disaster public housing) in three prefectures



講演スライドより抜粋

文責：村尾修（国際防災戦略研究分野）